6 月号

平成７年６月１日
発行／編集
岡崎市教育委員会

今日の目標、五百匹
石の間に目をやる理科部員
澄んだ水の冷たさが身を切る
蛍のえさカワニナ探しは
胴長ぐつの完全装備だ

四月のある日
大切に育てた幼虫を放流する
あのカワニナも一緒だ

取り付けられた看板が
水間に息づく幼虫を見守る

遠行橋で、学校橋で
理科部員の観察の目が光る

やがて河合の郷に
幽玄な灯がともる
さあ、蛍の季節の到来だ

〈河合の蛍〉

（仲良くしようね―河合中）

—教育随想—

児童・生徒に期待して…租税の真の理解者に…

岡崎税務署長
冨田　隆司

近年、税の役割や必要性などについては、かなり理解され、知ってくれている人が増えているなと感ずることが多くなった。

しかし、直接の見返りがないという租税の性格上、負担はできるだけ少なくと思うのは大方の気持ちであろうが、嘘をついてまでもアンフェアーな態度で、不正に自分だけその負担を免れようとする人たちも、依然としてかなりの割合で見受けられる。

そうした人たちは特定の業種に片寄って見られるのではなく、かなり普遍的に、社会的地位が高いといわれる人や一般に尊敬されている職業の人、あるいは知識人といわれる人などにも大差なく見られる。このような現実を目の当たりにすると、いろいろ考えさせられると同時に、税にかかわる場面を通してその人の人柄や見識がうかがえることも多い。

申告納税制度を基本としている我が国の税務運営は、納税者のすべてが租税の意義を正しく理解し、自主的に適正な申告と納税を行ってもらうことであると考えている。

具体的には、広報、相談、指導、調査を四本柱として、租税の意義や税法等をできるだけ知ってもらい、理解を得て適正申告がされるように広報したり、個別具体的なことに当たり、気楽に相談に応じられる体制作りをし、問題事項等の指導を行ったりするとともに、課税の公平を保つために必要な調査を行うこととしている。だが、人手、資力、能力等々のこともあり、考えている程十分にはできず歯がゆさを感じている。

こうした中で、このところ大いに期待され、効果が見られるものとして、租税教育があり、特に力を入れている。署の若手職員を中心とした講師のプロジェクトチームを作り、関係機関の大変なご協力を得ながら、小学校六年生から社会人までを対象として、話をさせてもらっている。

小中学校・高校の各学習指導要領における租税の意義や役割などについての記述は、近年になって、かなり手厚くなってきた。しかし、アメリカやフランスでの申告書作成等やイギリスでのきちんと納税すること等を教えているのと比べると、やや差異がみられる。

租税教室における我々の講師としての未熟さは、恥入るばかりではあるが、児童生徒の反応や感想文などからは、思いもよらぬよい感触を得て気を良くしている。

「税金は自分たちのために納めているんだね。自分だけ税を免れようとする人は卑きょうだね。」等々と言っていた子供たちの素直な成長を願っている。

平成六事務年度には、二十九の小中学校・高校の百十一クラスで租税教室をやらせてもらった。

（とみた　たかし）

二年間の学習指導案綴り

理科指導員
平岩　浩文

手元に、二年間の学習指導案綴りがある。研究授業に取り組んだ先生方の授業にかける想いの集積で、ずしりと重みを感じる。

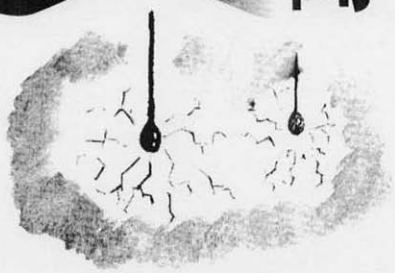
授業は、教材を媒介して教師と子どものつくる四十五分、あるいは五十分のドラマといえる。学習指導案はその脚本で、その善し悪しがドラマ（展開）の成否を決定する。

教師は、脚本家、監督、主演の三役を果たす。事前に教科、学年の助言を受けるものの、授業が始まればもう及ばない。リハーサルなしの一発勝負で、後戻りはできない。演ずるしかない。授業には予期しないハプニングも起こり、適切な教師の対応が欠かせない。優れた授業にはプロの切れ味がある。

訪問は、時期的に同じ単元が重なるが、授業者によって展開の仕方は

ふるさとシリーズ

この人に聞く



線香花火師

入山　芳枝　氏

日本の夏の風物詩である花火。庭先で手軽に楽しむ花火も、最近は多くの種類がある。ところが、こうした花火のほとんどが中国製である。線香花火も例外ではなく、国産はわずか一パーセント。この一パーセントが入山さんの手によるものである。

「家のこともやらなくてはいけないから、仕事は一日に三時間くらいで、できるのは二千本くらいですね。ですから、年中作っているのです。」

入山さんにとっては冬も花火の季節なのである。

「火薬を使う仕事だから冬でもストーブは使えません。また、火薬はとても細かい粒で、風に舞ってしまうため、夏でも扇風機を使ったり窓を開けたりできないのです。」

と、日頃の苦労を語ってくださった。

入山さんには、日本古来の線香花火を作りたいという思いがある。

「線香花火は、太ければ大きな花が咲くというものでもないのです。硝石が多いとはぜてしまいますし、撚り方がうまくいかないといい花は咲きません。いろいろと条件を変えて研究してみるんです。」

線香花火は元来安いもので、それで生計をたてていくなどということは考えられないそうである。

「私の家は花火屋で、子供のころから花火を作ることは生活の一部でした。他の仕事をやればもっと高い収入を得ることができることは分かっていますが、これが私の生活なのでやめることはできないのです。それに、自分の代で終わらせたくないし…。」

気取った様子もなく、気さくにお話してくださるが、その言葉の中には職人の気質が見え隠れする。

「線香花火は機械ではできません。手でしかできないからこそ大切にしなくてはいけないのです。」

火薬を調合し、紙を染めて一本の線香花火に仕上げていく技術は、入山さんの手に、日本の文化として受け継がれている。今、その技術を娘さんに伝えているところである。

お土産にいただいた線香花火に早速火をつけてみた。見事な花が力強く飛び出した。その花の勢いに、決して絶やしてはいけないという入山さんの気概を感じた。入山さんは、線香花火という日本文化の火を灯し続けてくれることだろう。

（氏　名　いりやま　よしえ
生年月日　昭和十八年一月二十九日
住　所　曙町一の一）

さまざまである。授業は教師の個性発揮の場である。個性は、学級経営にも反映し、子どもの成長に与える影響は大きい。子どもの個性云々の前に教師の個性こそが肝要といえよう。教育は人、つまり個性によるもので、年度当初の親の心配もそこにある。責任は重い。

ベテランの授業には、経験によって培われた「味」が、若い先生には思い切りのよい「熱意」がある。というものの、教師、子ども共に単元に深くのめりこむ授業は少ない。対象に対する主体的な選択・判断・探究の基準が個性である。他から評価され、独善に陥らない範囲で、授業者の個性をもっと生かしたい。

よき授業はよき個性、よき学習指導案から生まれる。まず、学習指導案作成の取り組みを反省したい。いずれも内田試案を越えない。形式等について感想は聞くが、今もって代案はない。昭和六十年三月に「学習指導案作成の手引き」（基礎編）が発刊され、十一年目になる。

【推薦する専門書】

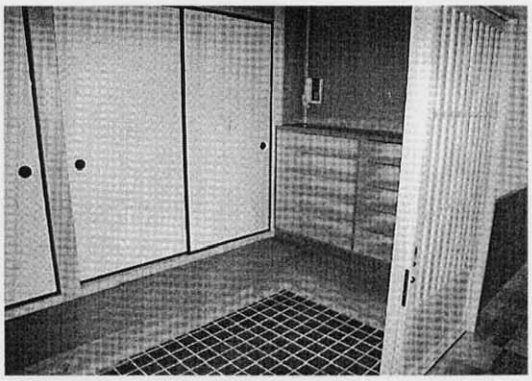
『理科重要用語三〇〇の基礎知識』
『授業研究大事典』
（いずれも明治図書）

ゆとりと潤いの教育施設

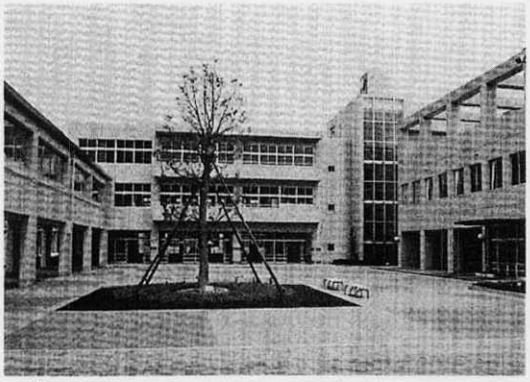
新築移転・福岡中学校

▲ブレザー姿も凛々しい新体育館での入学式

▲2万平方メートルを超える広大な運動場



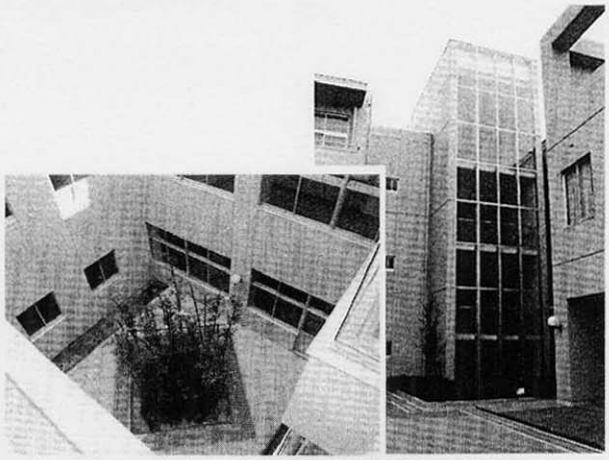
▲和風の談話室

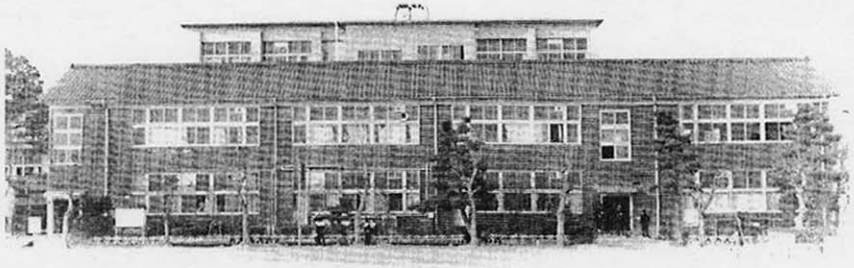


▲夢ふくらむエントランスエリア

▲福中生の登下校を毎日見守る校訓碑

▲広々とした校門まわり


▲吹き抜けの中庭と、近代的な階段明かり採り


▲半世紀にわたって6000人を超える卒業生を送り出してきた旧校舎▲

平成七年三月二十四日。昭和二十三年以来、約五十年ほどの長きにわたり、子供たちを育んできた福岡中学校の木造校舎は、他の校舎と共にその役割を終えた。

この四月より子供たちは、六百メートルほど南へ新築移転された校舎に学習の場を移して、希望に満ちた新学期の学校生活をスタートさせた。

新築の三階建校舎内に市内で初めて吹き抜けの中庭を二か所設置したり、図書室前に木陰のテラスを設けたりするなど、広い敷地を生かしてゆとりのある施設つくりが実現されている。また、階段の手すりや談話室の扉に木材を用いるなど、学ぶ者の心の潤いも考えられている。さらに、受変電設備や高架水槽を高さ約二十メートルの時計塔や塔屋に入れて、景観にも気を遣うなど、これからの学校教育にふさわしい、新しさを感じる校舎である。

新入生からは男女とも制服が紺のブレザーに変更され、福岡中学校の歴史に新たな一ページが加わった。

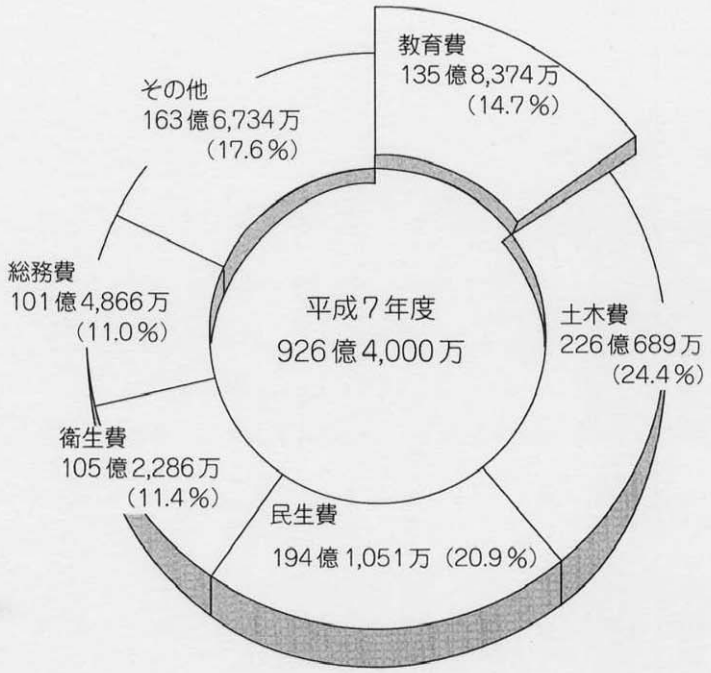
▲緑いざなうプロムナード

▲希望に満ちた新校舎での新入生受付

岡崎市の教育予算

〝夢と希望に満ちた香り高い文化をめざして〟

〈一般会計予算〉



（単位　円）

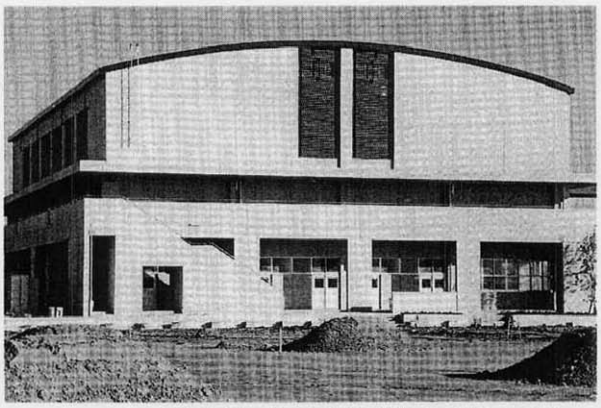
◆本年度の特色◆

①義務教育施設の整備
- 校舎増改築　中学校　一校
- 校舎改造　小学校　二校
- 屋外運動場拡張　小学校　二校
- プール建設　中学校　一校
- 小学校　一校
- 屋内運動場建設　中学校　一校
- 新設校用地造成　小学校　一校

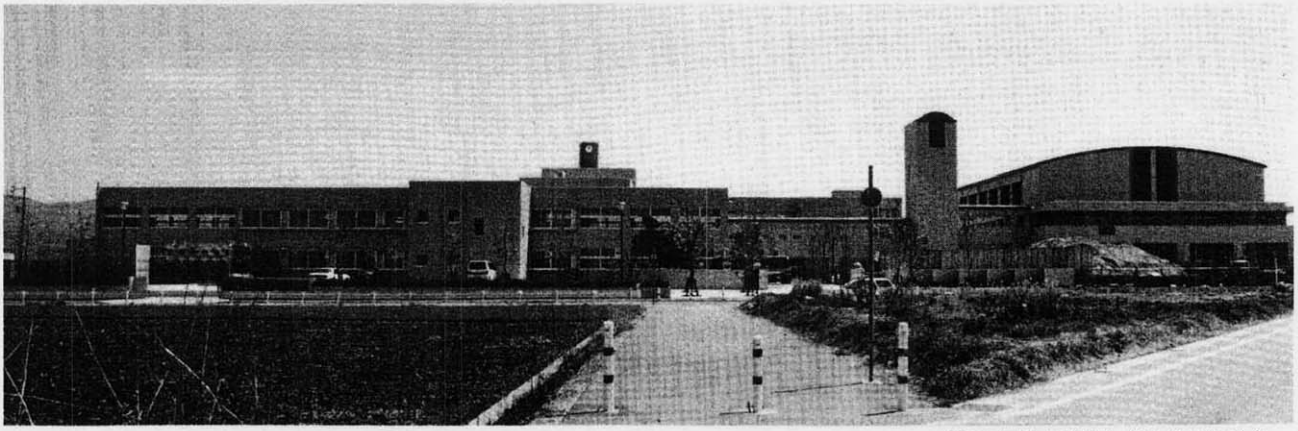
②バレーボールワールドカップ（女子）開催事業（新規）

③美術館・博物館開設準備事業（新規）

④美術館・博物館展示備品整備事業（新規）

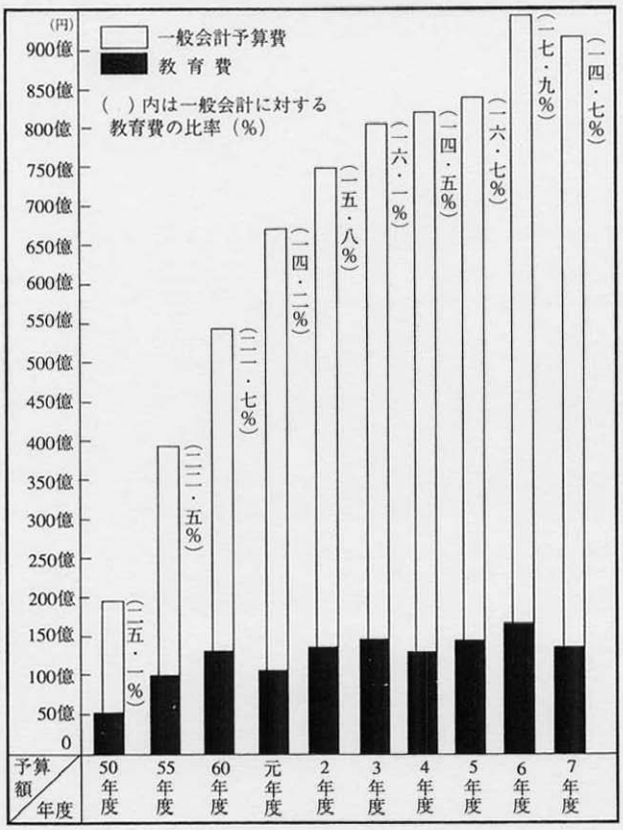


福岡中屋内運動場建設（平成6年度）

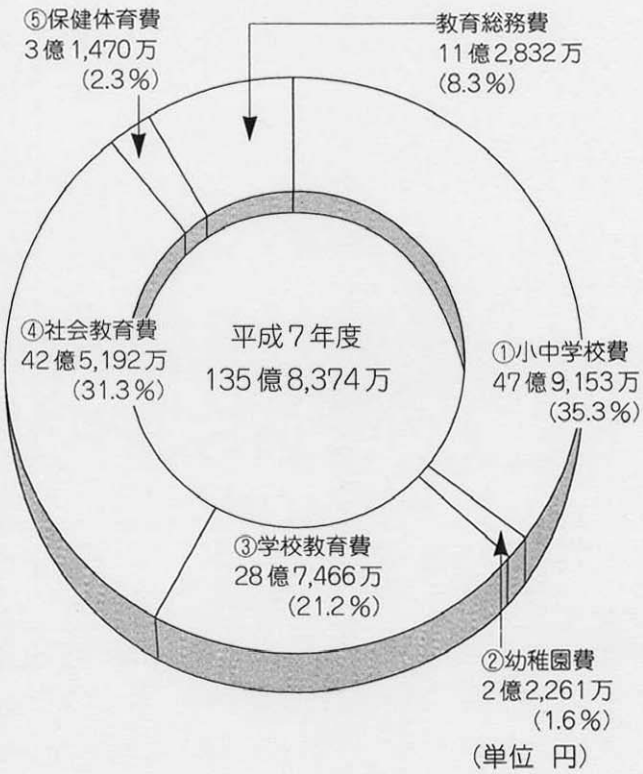


福岡中校舎建設（平成6年度）

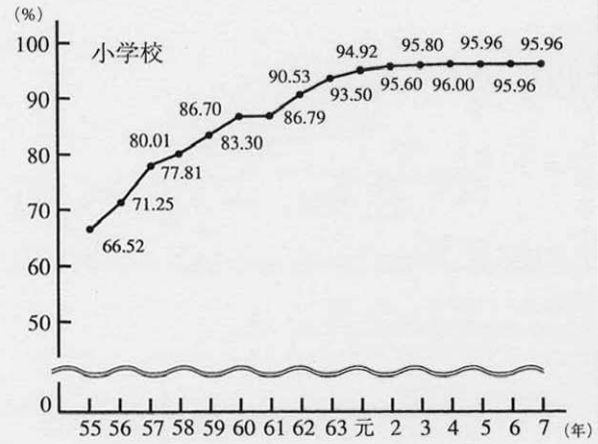
◆ 一般会計予算費と教育費の推移

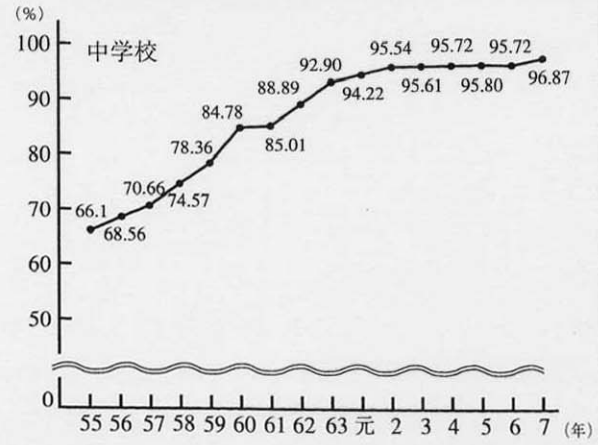


〈教育費の内訳〉



◆ 校舎鉄筋化率の推移 (数字は各年5月現在の百分率)





◆ あ ら ま し ◆

①小中学校費
- 校舎増改築（六ツ美中学校）
- 校舎改造（竜谷小、緑丘小学校）
- 屋内運動場、柔剣道場、部室建設（東海中学校）
- プール建設（連尺小学校、福岡中学校）
- 屋外運動場拡張事業（常磐南小、恵田小学校）
- 用地造成（六ツ美北部小学校分離新設用地）

②幼稚園費
- 市立幼稚園3園管理事務費など

③学校教育費
- 日本語教育講師派遣事業（日系ブラジル人・中国人児童生徒の日本語教育）
- 中学校部活動指導事業（民間指導者派遣）

④社会教育費
- 岡崎市民芸術文化行事開催事業
- 図書館情報システム構築事業
- 視聴覚ライブラリー備品整備事業
- 美術館・博物館建設事業・開設準備事業
- 美術館・博物館・展示備品整備事業

⑤保健体育費
- 体育振興事業
- バレーボールワールドカップ(女子)開催事業

⑥教育総務費
- 私立高校授業料補助金
- 私立幼稚園入園料補助金
- 岡崎育英会学生寮運営費補助金

ふれあい

小さな草花博士

矢作東小学校
柴田文子

「先生、この草、何ていう名前ですか。」

春の草花調べで、あちこちから子供がつるになったくきの長い草を持ってくる。不勉強な私は図鑑で調べてもその草が何であるのか分からない。

「この草、分からないから、採るのやめよう……。」

と弱気な私の答に、子供たちは意地になってその草の名前を調べ始めた。何か月か経って忘れかけたころ、

「先生、あの草ね、クズっていうんだよ。」

H男が得意気に報告に来た。

「すごい。さすが草花博士のH男君、根性で調べたね。」

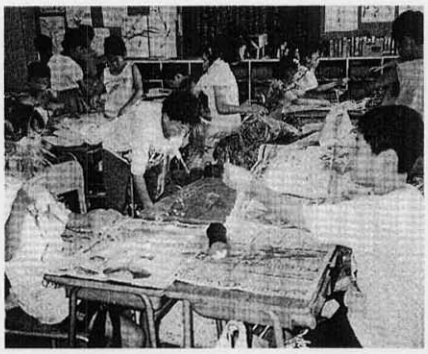
の言葉に満面に笑みを浮かべていたH男は、その後の「草花のひみつ調べ」の時もクズについて追究していった。

手作りの図鑑を作るため、春、夏、秋と草花採集に出かけ、スケッチし、それぞれの草の豆知識を自分たちでまとめていくうち、これまで何気なく見過ごしてきた道端の雑草にも目がいくようになった。

「オナモミのとげの先は、よく見ると曲がっているよ。そこで服の小さな穴にひっつくんだよ。」

「セイタカアワダチソウは、木みたいに大きいのと、草みたいにやわらかいのと二種類あってくきの中身がちがったよ。」

自然とのふれあいの中、子供たちは小さな草花博士の勲章を付けていった。



師弟同行

「それでもかわいい私の生徒」

井田小学校
柴田安則

私の、先生に対するイメージは「大きな包容力」「巧みな文章力」そして「ダンディーな服装」に代表されます。

全国的に中学校が荒れた大変な時期に南中学校の校長として赴任され、「大変だぞ。今度の校長先生は義務教育課長さんだって」のうわさの中、先生の優しい眼差しにとても親しみを覚えました。生徒指導に苦しむ中、先生の存在はとても大きく、折りに触れて生徒とともに私自身も育てていただきました。

特に生徒指導上の様々な問題を校長室に持ち込むたびに、「それでも、かわいい私の生徒だからな」と、思いやりを込めた口癖のような言葉が、私の子どもに対する気持ちの源となり、私の教師観が大きく変わりました。さらに、学級経営の基本とした私のつたない学級通信に、紙面が真っ赤になるほどの朱書きもいただきました。

先生に授かった「子どもを思う気持ち」と「心を結ぶ学級通信」が私の心のよりどころであり、今後も大切な指針としていこうと思っています。

「巧みな文章力」考

元梅園小学校長
中根清巳

柴田先生、この間は職員通信「鳴鳩飛雲」の合本を届けてくださり、どうも有難う。実際には、通信の余白に載せたメモを整理したものとありましたが、どうしてどうして、久しぶりにあなたとじかに対話しているようでした。

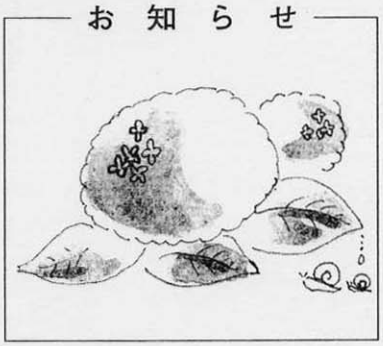
「はじめに」の中で強調されている「より強く子どもと心を結び、子どもの微妙な気持ちが汲み取れる教師を目指したい」とする姿勢は、端的だが優しい語り口でメモ（提言や感想）の一つ一つに反映されていました。

具体的な子どもの事実に学び、直截に子どもの心に働きかけてきたあなたの、これまでの学級づくりや通信の仕事が、この職員通信に見事に結晶しているように思います。

ところで、あなたの私への言葉に即して言えば、形式や上べなどにこだわる私の文章が「巧み」であるわけはありません。読み手の心や行動に何がしかの反響反応をもたらし、知恵や力を育むそういう文章（抱擁力をもつ人間性に裏打ちされた発言や文章であろう）それこそが「巧みな文章」だと思います。

その意味で、あなたの文章にこそ学ぶことは多いのです。

お知らせ



◆小中学校のようす

平成七年度岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。学校や学級の数、児童生徒と教職員の数を表に示してみた。大きな変化は見られないが、児童生徒数が漸減している。

●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
一校当たり児童・生徒数	584人	691人
一校当たり学級数	19学校	20学級
一学級当たり児童・生徒数	32人	35人

●児童・生徒・教職員数

区分	学校数（校）	学級数〈特殊〉（学級）	児童・生徒（人）			校長・教職員（人）（非常勤講師を含む）			養護教員（人）	事務職員（人）		栄養職員（人）
			男	女	計	男	女	計	県	県	市	県
小学校	41	753〈35〉	12,168	11,758	23,926	433	629	1,062	46	43	0	6
中学校	18	356〈21〉	6,308	6,118	12,426	424	232	656	18	25	9	2
合計	59	1,109〈56〉	18,476	17,876	36,352	857	861	1,718	64	68	9	8
6年度合計	59	1,121〈55〉	18,785	18,207	36,992	857	880	1,737	64	70	11	8

●学年別児童・生徒数（人）

小学校								中学校			
学年	男	女	計	学年	男	女	計	学年	男	女	計
1年	1,878	1,865	3,743	4年	1,998	1,968	3,966	1年	2,093	1,999	4,092
2年	1,978	1,963	3,941	5年	2,133	2,000	4,133	2年	2,087	1,994	4,081
3年	1,951	1,874	3,825	6年	2,166	2,055	4,221	3年	2,089	2,094	4,183

◆親善訪問使節団の派遣

岡崎市は、友好都市提携を結んでいる中国・呼和浩特（フフホト）市へ、今年も中学生を派遣する。五月八日に結団式を行い、六月十六日から二十三日までの八日間にわたり訪問する予定である。使節団は次のみなさんで構成されている。

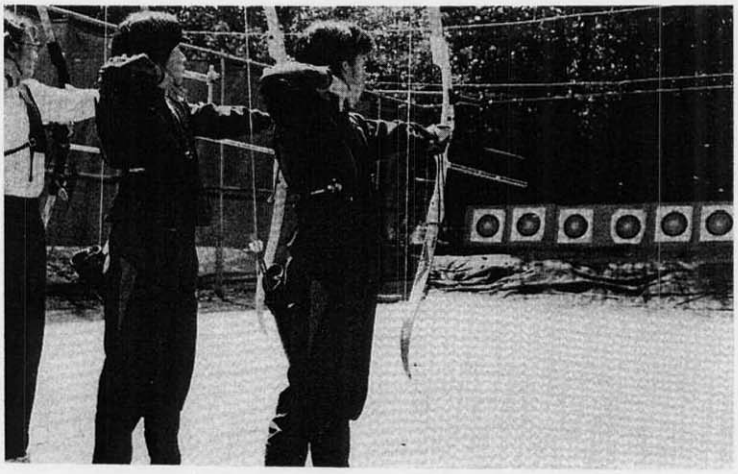
〈生徒〉
美川中　山本公三
葵中　杉浦由香利
福岡中　阿部将人
六ツ美中　加賀久美子
竜南中　畔柳麻衣子
六ツ美北中　金子孝行

〈教師〉
大樹寺小長　林和泉
常磐南小　長坂八重子

これに先立ち、呼和浩特市小学生訪問団が、五月十七日から二十五日までの九日間にわたり岡崎市を訪れた。

ズームアップ　東海中

中学校ではまれなアーチェリー場。距離20m、標的10個が設置され、部活動や体育の授業で利用されています。



金子一元氏　蔵

泉

『学級経営に生かす孔版技術』

エジソンによって発明され、明治二十七年に日本へ入って来た孔版印刷。学校教育においてもその簡易さから「ガリ版」の通称で普及し、印刷物の大半が孔版といえるほど愛用された。以後、印刷機の自動化に伴い、学習指導案や学校新聞、学級通信などが手軽に印刷できるようになり、学校運営や学級経営に欠くことのできないものとなった。

やがて、夏期実技講習会、新任教師の集いでもその技術向上が図られた。その中心的講師の山田利一先生が、講習会の度に資料として配布されていたのもを改めて自筆で書き、まとめたものが『学級経営に生かす孔版技術』である。

この冊子には、原紙やヤスリ、鉄筆の使い方だけでなく、偏やつくりの釣り合い、カットの描き方などが詳しく解説されている。

「手作り」の良さを持った孔版も、ワープロの普及や印刷機械の発達と共に姿を消し、忘れ去られつつあることに一抹の寂しさを覚える。

・表紙写真　河合中
・表紙詩　河合中
・カット　南中
杉浦明
藤井明
安藤真樹美

この本を

＊日本の教師に伝えたいこと　大村　はま
筑摩書房　¥1300

＊12のトイレ　村田喜代子
新潮社　¥1500

＊自然と人生　梅原　猛
文芸春秋　¥1400

＊ペット化する現代人　小原秀雄　羽仁進
NHK出版　¥850

福田恒存語録　日本への遺言
文芸春秋　¥2100
中村保男　谷田貝常夫　編

情報・知識の社会といわれ、豊かな物質に囲まれた生活をしていても、心のどこかに空虚さを感じるのが現代の人々ではないだろうか。

昨年秋逝去された福田氏は、価値観や正義感を説くのではなく、物や事象への考え方の道筋を、心を働かせる呼吸を示唆してくれる。

評論家としての氏の文章は、意表をつく断言、巧みな表現で読者にふと考えさせる問いかけとなっている。

オアシス

お知らせ一つを家庭に出すにも、原稿の文字数を考え、ろう原紙のマスの位置を決めなければならない。ヤスリと鉄筆が合わなければろう原紙が切れてしまう。本当に厄介なガリ切り。でも、でき上がった時は、手作りのほのぼのとした味が出たものである。

新築移転、福岡中学校。吹き抜きの中庭に弾む澄んだ声。木陰に開かれたページをなでるさわやかな風。広大な運動場にランニングする生徒たちのたくましい姿。紺のブレザーが新鮮な新一年生。新しいものづくめで、福中生三百二十一名の新たな学校生活がスタートした。

飽きのこない線香花火。ぱっぱっと開く様子を花にたとえ牡丹というそうである。そして、菊、柳とその姿を変えていく。構造は決して複雑ではないが、見事な三変化を見せる線香花火には神秘的なものを感じる。これこそ、日本の伝統文化であろう。

水源の貯水量が気になる季節がやってきた。一年前は異常渇水で、梅雨も期待はずれに終わり、プールに入れなくて子供たちをがっかりさせた。

今年も梅雨を迎えようとしている。水不足も困るが降り過ぎるのも遠慮したい。この声を天はどう聞いているのか。